

多高通信

第195号 令和4年1月28日発行



さどく ゆたかに たくましく
宮城県多賀城高等学校

科学部 環境甲子園 奨励賞受賞

12月18日、NPO法人環境会議所東北主催の環境甲子園において、本校科学部の「SDGsの取組 マクラギヤステアの生息北限と未知なる生息に迫る」と題した地球温暖化とマクラギヤステアの生息範囲に関する調査・研究をレポートにまとめ応募し、奨励賞を受賞しました。全国18校24件の応募の中から受賞となりました。授与式で行われた受賞校によるプレゼンでは、研究における着眼点や研究手法など、参加した生徒は大いに刺激を受けました。



■1年7組 池田 蓮(多賀城中出身)
今回授与式に出席して、他校の生徒達が工夫した点や大変だったところを知ることができました。また、自分たちも同様に工夫した所などを話し、その中で真夏のサンプリングした時の体験談を話した時には、会場の皆さんに共感してもらったことができました。講評の際には、「これからの研究に期待します」とのお言葉をいただき、今後研究に励んでいきたいと思えました。今回の経験をこれからの活動に活かしていきたいです。

軽音楽部 1年生大会グランプリ

12月18日、専門学校デジタルアーツ仙台において第7回宮城県高等学校対抗バンド合戦1年生大会が行われ、軽音楽部での部内選考を経て出場した1年生バンド「Curiosity(キュリオシティ)」が、ウル

フルズのコピー「ええねん」を披露しました。コロナウイルスの影響により昨年度に引き続き無観客での実施となりましたが、高い演奏力と本校伝統の熱いライブパフォーマンスを見せ、1年生大会で2年連続となるグランプリを受賞しました。

■ドラム担当 1年5組 長濱 樹(塩竈一中出身)
今回の1年生大会は私達がバンド活動をスタートしてから初めての大会でした。それまでにイベント等の前で演奏する機会はありませんでしたが、長い期間1曲に集中して取り組むことは今まで経験したことが無かったことで、練習から本番までを通して普段以上に多くの大事なことを得られたように思います。その中でも僕が特に今後大事にしていくべきだなと感じたポイントが主に2つあります。

1つ目は視線とアイコンタクトです。演奏に集中しすぎて視線がドラムの打面に落ち淡々と演奏していることがあったため、打面を見ないで叩いたり、演奏中に他のメンバーとアイコンタクトを取ったりすることを意識し練習に取り組みました。その結果、自分の演奏に余裕が生まれ、それに伴いバンドとしての一体感も増したように感じました。

2つ目は先輩や顧問の先生など様々な人に演奏を見てもらいアドバイスをもらうことです。多くの人から「お客さん視線」でアドバイスを頂き、自分達だけでは気付かなかった部分も改善することができました。

本番では強い緊張はもちろんです。見ている方々に楽しんでもらえるように自分達も1回の演奏を思いきり楽しんで演奏。パフォーマンスができたと思います。これからも今回得られたものを忘れずに改善点を見つけながら練習に励んでいきたいです。

語学研究部 クリスマス雑貨市

12月11日、語学研究部が多賀城市市民活動サポートセンターで行われた「たがさほのクリスマス雑貨市2021」に参加しました。

2004年のスマトラ島沖地震で20万人以上の死者・行方不明者という大きな被害があった被災地で、日本の手織り「さをり織り」が被災者の心のケアを目的に導入されました。語学研究部ではそれらの商品を販売しながら、雑貨市を訪れた方に防



災について改めて意識してもらおうことができました。

また、利益は多賀城市国際交流協会の募金とともに、ミャンマーに寄付します。昨年度、ミャンマー出身の技能実習生と交流する機会をいただきました。現在、ミャンマーは軍事クーデターで市民が苦しんでいるため、募金と寄付金はその市民への炊き出し支援になるように使われる予定です。

2年7組 玉川淳之介

僕にとって今回の雑貨市は、人々の復興を願う気持ちから生まれたツナミクラフトの商品をより多くの人に知ってもらった上に、多賀城市のパン工房やグッズ製作所などの多種多様な団体の方々が取り組んでいる活動について知ることができた貴重な機会でした。ツナミクラフトのような活動はまだまだ周知されていないと思うので、これからも自分たちの活動を通して広めていきたいです。



多賀城市長にもお越しいただきました

語学研究部 ミャンマー技能実習生交流会

1月10日、語学研究部が多賀城市大代地区公民館で行われた「多文化共生事業お正月あそび1」に参加し、ミャンマーの技能実習生と交流をしました。この行事は、大代地区公民館と宮城県国際化協会の主催によって、地域の方々と技能実習生とのつながりを目的としているものです。すころく・かるた・福笑い・書き初め・羽根つき(パドミントン)と一緒に楽しみながら、多文化共生のヒントを学ぶことができました。



2年1組 小野 遙生(塩竈一中出身)

今回の交流会では前回の交流会とは違った目線で交流することができました。地域サポーターの方々を実習

生に遊びを説明している時や、一緒に遊ぶときに易しい日本語で話したり、ミャンマーの話題を出したりと、外国の方と交流する時に参考になることを学ぶことができました。また、今までの交流活動とは違って体を動かして一緒に活動することは親睦を深めるのに良いやり方だと思えました。今後の交流でも今回経験したことを生かして工夫してできるようにしたいと思います。

北海道滝川高校実習交換 伊豆沼研修

1月5日、6日の2日間、北海道滝川高校道外研修「東北巡検」の一環として、滝川高校と本校の生徒がラムサール条約に指定されている伊豆沼・内沼保護区におけるフィールド調査を行いました。

初日は、マガンやヒシクイを中心とした渡り鳥の観察とガンの「ねぐら入り」の観察、そして交流会を行いました。蕪栗沼や化女沼および広大な水田地帯における野鳥と人々の暮らしの関連性と問題点について学び、交流会では、それぞれの学校や地域の特徴についての意見交換後、学校生活や研究活動に関して話し合うなど、充実した内容となりました。

2日目は、-7℃の厳しい寒さの中、伊豆沼においてガンの「ねぐら立ち」を観察した後、クサレダマの移植作業と冬眠昆虫の採集を行い、森と湿原、人の暮らしとの接点を学びました。

1年3組 文屋 咲良(岩切中出身)

今回、北海道滝川高校の皆さんと巡検を一緒にを行い、伊豆沼や蕪栗沼、化女沼を巡りマガンやハクチョウを見る機会が得られて、とても勉強になった2日間になりました。それぞれの沼に特徴があり、伊豆沼では約10万羽のマガンが暮らしていることにも驚きました。その他にも、自分の知らなかった渡り鳥の習性や環境保全の実際について詳しく知ることができて、とても充実した巡検になりました。今回の巡検で得た体験や知識をこれからの課題研究に生かして、課題を掘り下げて自分で解決し、周囲を納得させられるような研究にしたいと思います。

